

## アジア養蜂研究協会



研究施設紹介 (7) と  
Asian Bee Journal 発刊

### 研究施設紹介 (7) Century Foundation

Century Foundation は 1996 年に民間の非営利科学研究組織としてインド・バンガロール市に設立された、政府認定の信託財団である。環境資源の持続可能な利用と、村落地域の健全な開発のために必要とされる科学技術を振興することをめざし、多数の生物学系研究者が活発に活動をしている。

自然環境を保護、再生し、より安全で豊かな生活を築くことは当財団の目標のひとつである。養蜂を振興し天然資源を有効利用すれば、村落社会は多様な経済的恩恵を受け得る。我々が知識と専門技術をひろめることで、インドの多くの人々が科学的な見方と、収入をもたらす雇用とより良い暮らしを手に入れれば、国家は積極的に安定した労働力を得ることになる。

1996 年 12 月に開催した「熱帯のミツバチと環境に関する会議」の基調講演でパルマ園芸林業大学副学長、L. R. Verma 博士は、“自然環境を維持、保護するためには、従来のものに代わる新技術の開発利用が重要である。”と述べた。会議には N. R. Shetty バンガロール大学副学長、G. K. Veeresh バンガロール農業科学大学副学長などインド各地から多くの科学者、関係者が出席し、「ミツバチと環境」「植物とポリネーション」「ミツバチ病理学と養蜂管理」「ミツバチ経済学」の 4 分野で発表を行なった。

天然資源やその関連分野全般にわたる重要な情報を速やかに入手するため、当財団は世界レベルのネットワークを構築した。今後も内外の研究機関と協力し、養蜂、天然資源管理、生物多様性の維持、持続可能な薬用植物の利用など、学術研究と普及振興事業の両面で積極的に取り組んでいきたい。(Dr. V. Sivaram)

### Asian Bee Journal 発刊

アジア養蜂研究協会は新しい国際学術英文雑誌 ASIAN BEE JOURNAL (当面年 2 回) を発行する。第 2 回大会 (1994 年インドネシア) の大会決議で提案された課題であったが、具体化には多くの解決すべき問題があった。第 4 回大会 (1998 年ネパール) の総会で正式に承認され、Century Foundation が編集出版を担当する (編集委員長: Dr. V. Sivaram, Century Foundation, # 193, Double Road (KMJ Education Trust Bldg., Indiranagar 2nd Stage, Bangalore 560038, INDIA. Tel: 91-(080)-5253324, Fax: 91-(080)-3348346, E-Mail: cenfound@sparrl.com)。

自然環境での在来種ミツバチの重要性が次第に広く理解されてきた。アジアにおける持続可能な農業と生物多様性の維持をめざし、導入種セイヨウミツバチと共に、アジア地域在来のミツバチ種による養蜂を発展させるために、多くの努力を傾注すべきである。ミツバチは環境資源保護に利用できる安価で総合的な手段となりうる。また発展途上国で養蜂を農業に組み込めば、持続的な雇用、栄養源、収入が創出される。養蜂の振興、普及に関する研究、情報交換はアジアの養蜂の欠くべからざる要素といえよう。

Asian Bee Journal は査読・校閲を受ける原著論文、研究ノート、総説、ニュースなどを掲載し、アジアのミツバチや環境、資源の多様性、その持続可能な利用、養蜂生産物の研究成果などを広く世界に問うものとなる。

本誌掲載の論文からミツバチ生物学、ポリネーション、ミツバチと環境、病理学、養蜂植物学、養蜂生産物、蜂群飼養管理研究、ミツバチ経済学における最新の潮流を見出すことができよう。(編集ノートより)

現在創刊号の編集を進めつつ、雑誌としての詳細を詰めている。次号ミツバチ科学では詳しくご紹介し、日本からの多くの投稿と購読をお願いしたい (詳細次号)。